

群 教 七	G02 - 03
	平18.234集

経済とのかかわりから社会的な判断力を 育てる指導の工夫

— 身近な経済活動からお金の流れと自らの意思を表す
チャート図の作成を通して —

特別研修員 竹内 昭典 (明和町立明和中学校)

《研究の概要》

本研究は、中学校社会科の公民的分野において、身近な経済事象を活用しながら、お金の流れを媒介とした経済・金融社会を「構造チャート」として表すことで、実体験とかけ離れがちな経済の概念理解を図る学習活動を行うとともに、経済的な価値を考えて判断する際に「意思決定チャート」を活用することで、経済・金融社会の主体者として将来を見通し、より合理的に自己判断できる力を育てるための活動を行った。

○ はじめに

経済のグローバル化や構造の複雑化、ITの目覚ましい発達・普及といった社会の変化には、著しいものがある。21世紀を生き抜く生徒に、急速に変化している経済・金融社会において、主体的に参画できる力を身に付けていくことが強く望まれていると言える。

急速に普及してきたITは、本校の生徒にとっても、インターネットを用いて物品を売買することなどは、ごく身近な社会事象になりつつある。しかし、ITの利用一つとっても、その概念理解が不十分なままに、一般化しつつあることも実状である。生徒を取り巻く多種多様な情報を適切に取捨選択し、活用していく能力とともに、新たな経済・金融社会を適切に理解できる力が必要になってきている。

確実に成長が期待できる右上がりの経済は、終えんを迎えた。一生涯において子どもたちが生活者として自己責任で判断し、意思決定をする必要のある場面が増大している。多様な情報を把握・分析し、将来に向け主体的に行動できる力の育成が求められていると考える。

また、中学校の公民的分野の内容は、政治や法、経済や福祉と多岐にわたり、実体験から理解しづらいことが、生徒の実態からもうかがえる。各々の単元を経済・金融教育といった「括り」で、体系的に概念を把握させる必要性が提唱されている。

そこで、身近な経済的事象を教材とし、お金の

流れを図表化したチャートを作成・活用しながら経済活動の一つの括りとして追究し、身近な経済活動の中にある意思判断をさせていきたいと考えた。このような学習活動を通じて、経済活動の概念の理解を深めさせ、自らの周りの情報を整理し、生活者として主体的に将来を見通し、より合理的に自己判断できる力を育成することができると考えた。

家計・企業・国といった経済の三主体は、金融機関を仲立ちにお金を媒体として相互に結び付いている。生徒にとって最も身近な主体である家計を出発点として全体を見通し、お金の流れを示すチャート図（構造チャート）に表す活動を通して各々の主体の概念を理解するとともに、チャートの向きにある意思を考えるチャート図（意思決定チャート）を作成し、相互に関連させることは、主体的に将来を見通してより合理的に自己判断できる力を育てるために有効であると考え、本研究を設定した。

I 研究の概要

1 基本的な考え方

(1) 経済とのかかわりとは

生徒は将来、家計の主体者として多様な決定を行う場面に直面することになる。また、消費者としても生産者としても、場合によっては投資家としても意思決定する場面をもつことになる。ここでいうかかわりとは、こういった様々な立場におかれた際に、生活者として主体的に社会に参画し

ていくことである。そこで、まずは家計の主体者として、さらに賢明な消費者として限られたお金を有効に生かしていくことを学習過程において、考えさせる必要があると考える。次に、学習した成果をふまえ、限られた「財」を有効に活用できる経済の主体者として、また勤労の意義についても理解できる国民として、さらには社会的な責任を伴う企業人として、主体的に社会に参画していくとする姿勢を身に付けさせていきたい。

(2) 社会的な判断力とは

中学校社会科、特に公民的分野における社会的な思考・判断とは、現代の社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や役割、相互の関連などを多面的・多角的に考察し、様々な考え方をふまえて公正に判断できる力を指している。つまり、現在の経済・金融社会では、貯蓄したり、投資したり、消費したり等の経済的な決断をしなくてはならない場面において、経済概念と経済的価値を勘案して、より合理的に自己判断して意思決定できる力であると言える。

そこで、生徒の社会的な判断力を育てるために、解決すべき課題の解決には複数の選択肢があり、各々にはメリットとデメリット（リスクとリターン）があることと、その理由を理解させ、自らの合理的な判断に基づく意思決定をする力を身に付けていくことが重要であると考えた。

そのために、授業実践を通じて、制度的・事実的な知識から経済概念などの応用的・概念的知識を理解できる力と、身近な経済事象の中から情報を取捨選択し、経済的な決断をする際に、得られた情報を活用できる力を育成していく必要がある。身近な経済事象に即応し、この二つの力を身に付けさせる活動を通じて、社会的な判断力の基礎が培われると考えた。こういった活動をふまえて、自ら判断し、合理的な意思決定ができる力を育てていきたい。

2 研究の内容及び方法

(1) 研究の内容

① 研究の手だて

ア 経済の単元をお金の流れという視点から構成して、お金の流れをチャート化する活動を行い、相互関連をもつ経済・金融社会の概念理解を深めるようにする。

イ 生徒に身近な経済事象を具体的に学習に

取り入れて、自らの意思を決定していくための材料として活用し、経済主体の構成者として、自己判断のための情報を活用できる力を身に付けるようにする。

ウ お金の流れ（チャートの方向）にある意思を考えさせる活動の中で、意思を決定する過程を明確にし、主体的に将来を見通してより合理的に自己判断できる力を身に付けるようにする。

② お金の流れや自らの意思をチャート化する活動について

経済とは、端的に言えば人々がお金を稼いだり使ったりする活動のことである。そして経済活動とは、商品を買ったり、貯蓄をしたり、投資をしたり、生産を行ったりなど様々な活動のことを示す。こういった活動にはそれぞれ主体があり、その主体間でも同様のことが行われているなど経済構造が複雑なために、生徒にとっての概念理解をより困難にしていると考ええる。

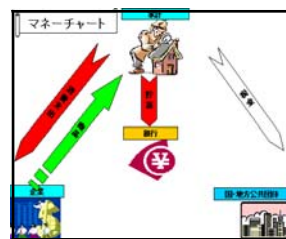


図1 チャート図1

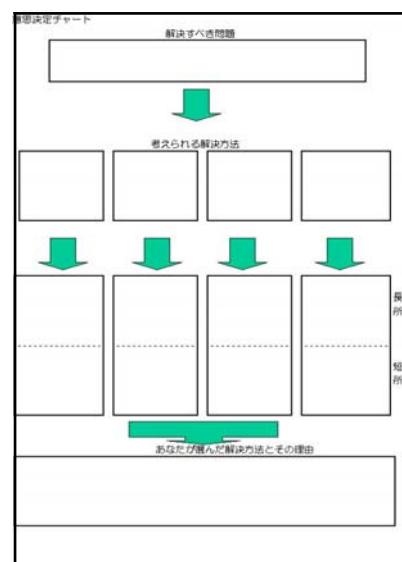


図2 チャート図2

そこで、複雑な経済の概念を理解するためには、学習活動の中で得られた成果を端的にまとめて、各々の相互関連性を視覚からとらえさせることが有効で

あり、さらにお金の流れや意思を矢印（チャート）で表すことで、矢印の向きに主体者の意思を表現することができる。考える。

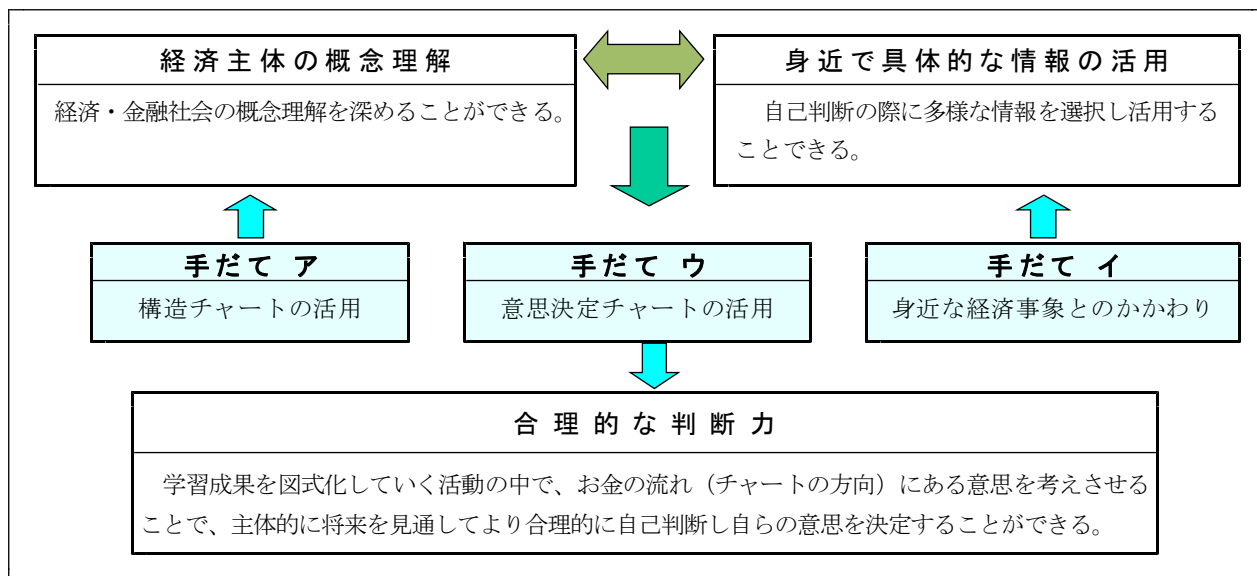
まず、家計を学習の出発点に経済の三つの主体と、お金の「潤滑機関」として

の金融の存在を基点にし、お金の流れを矢印（チャート）として図式化する。つまり、お金を媒体にそれぞれの経済主体の活動内容をチャート

化した図1（構造チャート）と、矢印が向かう方向にある考えをそれぞれのリスクとリターンを明確にした上で表す図2（意思決定チャート）を用いて、一単位時間ごとの学習の結果として整理し、

それぞれを関連させていくことで、経済概念が深められ、社会的な判断力の育成に結びつくと考える。

③ 研究の基本構造図



(2) 研究の方法

① 実践の計画

対象	明和町立明和中学校3年C組（38名）	単元名	わたしたちの暮らしと経済
実施期間	平成18年9月下旬～11月上旬		

② 抽出生徒

A 男	地道に学習に取り組むことができるが、積極的に意見を表明することは少ない。本單元にかかわる事象に関しても関心が薄く、積極的に自己判断をしようとはしていない様子がある。明確で合理的な意思表示を積極的にさせていきたい。
B 女	素直な感性をもち、本單元（経済・消費）にかかわる知識もある程度身に付けているが、日常の消費活動などでは、独自の価値観で行動している。自己表現をすることを苦にはしていない。経済的な価値を勘案した合理的な判断力を身に付けさせていきたい。

(3) 研究の展開

① 単元の考察と目標、評価規準

目標	身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解するとともに、価格の動きに着目して市場経済の基本的な考え方について知る。また、現代の生産の仕組みのあらましや金融の働きについて理解して、社会における企業の役割と社会的責任について考え、経済活動の主体者としての自らの意思を表現する。			
評価規準	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
	○価格や金融に関する作業や、職業と仕事についての話し合いといった課題学習に関心をもち、金融の働きや職業の意義などを自ら意識的に学習している。	○市場経済における価格の決め方や役割、価格の働きや市場の働きなどに委ねられないように、多面的に考察し、リスクやリターンなどの経済的価値が勘案されることを述べる。	○市場経済のしくみ、金融の働き、職業などに関する資料を収集し、適切に選択・活用している。さらに、考察した結果をまとめ、提言することができる。	○身近な事例を通して市場経済の基本的な考え方や価格の決め方や役割、金融の働き、職業の意義と雇用問題のあらましを理解し、その概念的な知識を身に付けている。

② 指導計画 (全 12 時間)

○ : 手だてア ● : 手だてイ ◎ : 手だてウ

時	過程	主な学習内容 (学習活動)	留意点 (支援や資料活用等)	形態	評価項目
1	つかむ	<p>経済って何だろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● お金の役割について理解する。 ○ 家計を通して経済の三つの主体について知る。 ◎ 所得と消費の関係を家計を通して考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 貨幣の意義について発表させ、価値の交換、保存、尺度の概念を理解させる。 ○ モデル家計簿からお金の流れについて理解させ、単元の構成図 (構造チャート I) を示して学習の方向性をつかませる。 ● 収入と支出や貯蓄の関係と配分が重要であることを押さえる。 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ● お金の役割について理解できる。(知) 【ノート】 ● 経済の主体について理解できる。(知) 【構造チャート】
2	追究する ①	<p>賢い消費者とは・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 商品購入の様々な方法について理解し、消費者が商品やサービスを購入する際、自ずと選択の原理が働いていることに気付く。 ● 支払い方法の種類と特性について調べる。 ◎ 多様な支払い方法について考え、消費者主権に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 家計からの消費、特に商品の購入をネットショッピングのHPと店頭販売のチラシを例に様々な形態とその消費者トラブルについて、調べさせるようにする。 ● 広告を見る視点から消費者主権について考えさせるようにする。 ◎ ニーズとウォンツの違いをつかませた後、家計 (小遣い) の黒字分をどうするか、リスクやリターンを話し合わせて、意思決定チャートを作成させる。 	小集団 個別	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様な販売形態や支払い方法について特性を調べることができる。(技) 【ノート】 ● 多様な消費の特性をふまえて、主体的な考えを述べている。(判) 【意思決定チャート】
4	追究する ②	<p>お買い得な商品とは・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市場経済と価格の仕組みについて理解する。 ● 商品の価格の決まり方について考え、事例を通して理解する。 ○ 消費者と企業の間にある商業があることを構造チャートを通じて理解する。 ◎ 食料品、家電、嗜好品の買い方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家電小売店と量販店、オンラインショッピングでの買い物をシミュレーションさせることで、流通について調べさせる。 ● 地元のキュウリの出荷量と出荷価格の関係から需要と供給、市場経済全体について理解させる。 ● 公共料金についても触れる。 ○ 流通経路を経て、企業にたどり着いた資金は、資本となって商品を生産するという資本主義経済のしくみを構造チャートを用いて理解させる。 ◎ 同じ品物をどこで入手するのかを話し合わせて、意思決定チャートに記入させる。 	一斉 小集団 個別	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様な流通形態の特性を、調べることができる。(技) 【ノート】 ● 価格について理解している。(知) 【ノート】 ● 商品の流通経路の違いによる購入方法の長所と短所について考え、自分の考えに合った購入方法を主体的に判断している。(判) 【意思決定チャート】
6	追究する ③	<p>消費と貯蓄どちらが賢明?</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 貯蓄されたお金の行方を追究し、金融の果たす役割について理解する。 ◎ 消費と貯蓄について考える。 ○ 家計・金融機関から出たお金がどのように社会を回るのかを、構造チャートにしてまとめていくことで次の学習の見通しを立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業の資金調達資料などから、住宅ローンを手がかりにして、収入以上の買い物をするために、貸し手や借り手が存在すること、構造チャートから貯蓄に回った資金が、企業の活動資金や生活の資金として円滑に循環していくために金融機関があることを調べさせる。 ● 中央銀行としての日本銀行の役割についても銀行の資金調達という観点から理解させる。 ◎ 消費と貯蓄のどちらが「賢明」なのかを経済社会全体を見通して話し合わせて意思決定チャートを作成させる。 	小集団 個別	<ul style="list-style-type: none"> ● 銀行の役割について理解することができる。(知) 【構造チャート】 ● 貯蓄と消費の意義を考えている。(思) 【意思決定チャート】

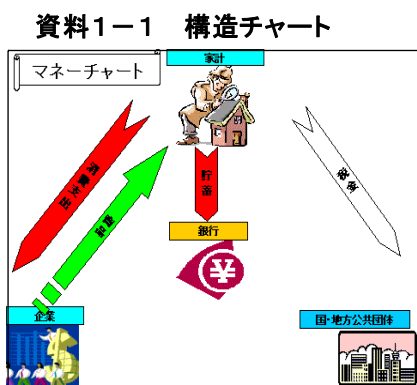
		賢い投資家とは・・・			
7	追究する ④	<ul style="list-style-type: none"> ●企業の役割、株式の仕組みについて調べる。 ○企業の果たす役割を理解し、構造チャートに学習成果を重ね合わせる。 ○職業の意義や勤労者の権利について知る。 ◎投資をする価値のある企業について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●企業のはたらきについて調べさせ、投資する価値のある企業のあり方について、HPなどから調べ、考えさせる。 ○家計の維持という観点から勤労について考えさせ、職業の意義や勤労者の権利について、調べさせる。 ◎投資をする価値のある企業について、話し合わせ、意思決定チャートに記入させる。 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の役割や株式について理解している。(知)【構造チャート】 ・投資する価値について考えている。(判)【意思決定チャート】
8				小集団	
9					
		21世紀の責任者として・・・			
10	深める	<ul style="list-style-type: none"> ◎ポスターセッションを行い、経済の循環についてまとめ、消費者として、生産者として、企業家として、国民としての提言をまとめて、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●家計からた資金が企業や金融機関などを經由し、家計に戻り循環していくことを学習グループを一つの経済主体としたポスターセッションを通じて理解させる。 ◎それぞれの主体が社会全体について果たす社会的責任について「まとめシート」に記入させ、学習のまとめを図る。 ・消費者の権利、勤労の意義や労働者の権利、公害の防止と環境保全等の企業の社会的責任についてもふまえた内容になるようにする。 	小集団	<ul style="list-style-type: none"> ・学習をまとめて発表している。(表)【ポスターセッション】 ・経済主体者として学習成果をまとめて、自らの意思を表明できる。(思)【意思決定チャート】
11				小集団	
12					

II 実践の概要

1 経済・金融社会の概念理解を深めるためにチャート化する活動

本単元の学習前の時点では、生徒の「経済」という概念理解について、ほとんどの生徒が漠然としたものであった。

そこで、導入に当たって家計簿を基に【銀行(金融機関)】を仲立ちとした【家計】、【企業】、【国・地方公共団体】の三主体にお金が行き交うことを、資料1-1のようなチャート図にまとめて、学習成果をまとめ上げるワークシートとして生徒に配布した。また、プレゼンテーションソフトを活用して学習の経過や成果をチャート図として全体に提示できるようにした。

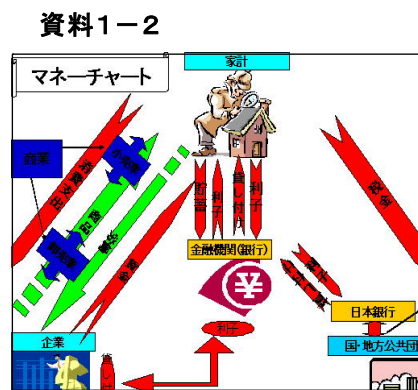


チャートを活用して学習を進めたが、その過程において、A男も含めた26名の生徒が、「経済が(少

し)分かった」と感想を述べた。しかしB女は「改めて難しさが分かった」と述べている。これは、「欲しいままに買い物をしていた」B女にとって、学習をしたことにより、従来の価値観から、新たな経済的な価値観に気付いたものと考えられる。

以降、本単元後の学習になる税金の納入も含め、家計と金融のかかわりから「預金」及び「貸し付け」と「利子」、消費活動を通じた商業の役割などをチャート図に加えていった(資料1-2)。「商品」や「労働」など代価となる事象を加筆する際は、チャートの色や形を変えることで、図が煩雑にならないように配慮した。

特に、「消費と貯蓄はどちらが賢明」の学習活動は、構造チャート内で、お金が流れていることを理解した



上での学習が有効であると考えた。A男は、「ものを買うことでお金がたくさん回り、企業なども得をし、いろいろな人も給料などが増えるから、世の中の的には『消費』の方がいいんじゃないか」、B女も「お金を使え

ば、経済が活発になる」と自分の考えを基に判断することができた。その他にも、「世の中のお金の出回りがよくない（から消費がよい）」「社会にお金が出回ることによって企業の調子がよくなりそうだ」「お金がない人にお金を貸すことができれば、その人が経済活動を活発にするので、貯蓄のほうがい」等の考えが出された。

手元を離れたお金が、直接目にするのでできる小売店舗から離れて流通していること、商業が消費に介入していることや、金融のはたらきをふまえた、チャート上のお金の動き、すなわち経済全体を見渡した上での理解が図られた様子が分かる。全体としても85%の生徒から、経済を理解する上で分かりやすい、という感想を得ることができた。

2 身近な経済事象を用いて、情報を活用できる力を高める活動

資料2-1 流通指導資料1



資料2-1は「追究する②」の流通を学習する際に用いた、プレゼンテーションソフトを用いたの提示資料である。同じテレビの家電小売店・量販店やネットショップで価格の違いに着目させて、流通業の存在を調べさせる動機付けの資料として作成した。

昨今の家庭用電気製品は、流通形態によって価格差が生じやすい傾向にある。またテレビは、野球やサッカーなどの世界的な大会が催された今年度、生徒にとって身近な事象になっていると考えた。

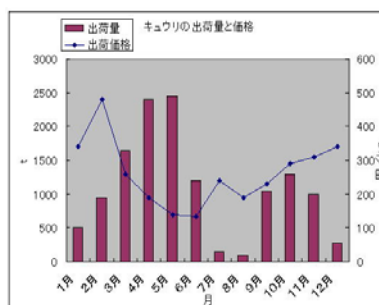
流通の学習では、テレビの価格の違いを理解させるための導入として、卸売業を始めとする商業の役割について一斉に学習した後に、流通形態が、価格にどのように影響を及ぼしているかを調べさせた。教科書や資料集とともに、補足資料として利用者の意見などを配付した。

生徒の回答としては、「生産者から直接仕入れることが可能なので流通費用を節約することができるので量販店は安くすむ」「在庫費用の節約ができるのでネットショップは安い」等の回答があった。事前の調査では「量販店で家電が安く売れる理由」をある程度知っていたのは3割程度であ

ったが、この資料の活用により、流通の意義について理解できた生徒を9割にまで高めることができた。

資料2-2は、需要と供給の関係を見いだすために、キュウリの月別の出荷量と出荷価格をグラフ化したものである。東毛地区は、全国規模のキュウリの生産地であり、本校の生徒にとって、ナシとともに地元の特産品といえる農作物である。需要と供給の学習において、生徒は、地理の学習での既習事項として、農家が産地間競争で利益を

資料2-2 流通指導資料2



上げるための工夫を理解している。そのこともあり、スムーズに出荷量と出荷価格の関係を見いだすことができた。A男、B女ともに「出荷量の多い時期には価格は安い、逆に出荷量の少ない時期には価格は高い。」との結論を導き出すことができた。

資料2-3は、深める過程においてA男が『主体者として』のテーマで作成した、ポスターセッション用の資料である。まとめとしての資料は、作業効率を考慮して校内LANを活用したコンピュータでの作成とした。A男は、企業の製造物責任を調べるためにWebページなども活用し、社会貢献などもふまえた社会的な責任についても追究し

資料2-3 A男のまとめシート

自分が社長になったら企業をどうするか？

～消費者のために～
 ます、PL法（製造物責任法）に従い、商品に欠陥があり、消費者が被害を被った場合、その責任をとり、恩謝料を払ったり、無料で修理・点検をします。又、より良い商品を提供し、消費者が暮らしやすい様な社会にしたいです。そのためは、ただ安いだけでなく、標準を持っている人や高齢者にも使いやすい様な商品にしなければいけません。それに、ただ利潤を求めるとはならず、社会に貢献するために緑化運動等を推進したいです。

～労働者のために～
 ドイツを見習い、労働時間は最低限に減らし、残業もできる限り減らし、労働者が働きやすい企業にしたいです。そして、冠位十二階のように才能のある人には優遇し、才能の無い人はその人の才能を見つけ出せるようにしたいです。そして、なぜ労働時間を減らすのかと言うと、女性が社会進出したことにより出生率が低下したので、そんな人たちが働き易くなり、子供が産み易くなれば良いと思ったからです。

～株主のために～
 ます、株主優待券を発行し、株主が出資したいと思えるようにしたいです。なぜ株主が出資したいと思えるようにしたいのかと言うと、だれもが出資したいと思わなければ倒産しかねないからです。そうした場合、私が経営していた企業の労働者は失業してしまうので、それは避けたいからです。

～まとめ～
 こうして自分が企業の社長になったら仮定して考えてみると今、日本にある企業の多くのようにただ利潤を求めるとはならず、環境保護をする事も大切だとも思いました。そして自分が社長になったら、上であげたような事を実行したいと思えます。

自らの意志を表明することができた。B女は当初、何をまとめればよいのか戸惑っていた様子も見られたが、自分のノート（既習事項）を適切に活用

するよう助言したところ、資料2-4のようにB女の素直な感性を生かして自作資料を作成することができた。

資料2-4 B女のまとめシート（資料は抜粋）

消費者側→消費者団体を結成！
 環境にやさしいものを買ったり、商品テストなどの消費者運動を地道に繰り返したりしていきまー。
 ↓
 消費者の権利を守るルールがしだいに確立！

行政側→消費者問題の解決に乗り出すようになってきましたー。
 製造物責任法（PL法）も作られる。PL法も、消費者の権利を守る法律です。
 製品の欠陥によって消費者が被害を被った場合、製造者である企業に被害の救済を義務づけられる！

消費者運動の先進国であるアメリカでは、ケネディ大統領が「安全である権利」「知る権利」「選ぶ権利」「意見を反映させる権利」の4つの権利を消費者の権利として明確にする。
 ↓
 ほかの国々の消費者行政にも大きな影響を与える。

3 学習成果を図式化していく活動の中で、お金の流れ(チャートの方向)にある意思を判断させる活動

追究する過程では、一単位時間毎に学習課題を設定して、学習活動に臨むようにした。活動での配慮事項として、まず学習課題については、前述の「自分にあったテレビの購入法」のように正解が一つに限定されないものになるようにした。生徒の今後の経済的な選択肢には複数のものがあると考えたからである。次に、それぞれの回答(判断)に関しては、その判断規準を明確にするために長所と短所を記入させるようにチャート図を作成した。学習活動は、6人程度の少人数でのグループ活動を基本とした。

個人の判断とその根拠については資料3-1のように学習課題ごとに考えを付せん紙に記入し、添付させるようにした。グループとしての意思判断を明らかにさせ、学級全体の場でそれぞれのグループが発表させた。その後、個々の判断を再度意思決定チャートに記入させるようにした。これは、他者の考えに触れさせることで、多様な経済的な価値に気付き、個々の自己判断を深め、より合理的な意思決定をさせたいと考えたためである。

資料3-1 意思決定チャートの活用

意思決定チャートについては75%の生徒が、「効

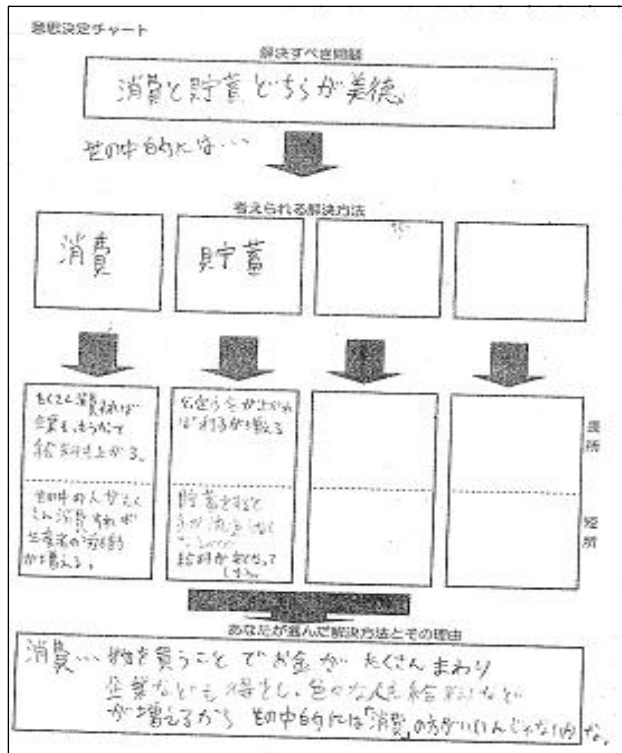
果的」であったと感想を述べている。理由として、

- 考えられたことをまとめられる。
- 自分の考えを各々の立場で書くことができる。
- 長所、短所を考えた上で自分の意思を決定できる。
- 頭の中で選択できるとき、この図が浮かんできたら便利だと思った、ものを多方面から見ることができた。

A男は、「どのようなことが長所なのか、短所なのかがよく分かった」と感想を述べていた。B女は、「自分で考えてやったので、しくみがよく分かった」と述べていた。

資料3-2は、A男が作成した意思決定チャートであり、資料3-3は、B女が深める段階で作成した資料である。A男は、消費することと貯蓄することの経済的な意義をふまえ、企業利益が労働者の利益になることまで考察し、自分の言葉で記入することができた。B女は修学旅行等で明確な目的をもたずに商品を購入していた生徒であったが、授業終了後の今後の消費活動についての調査では、「自分の手持ちをふまえて、本当に必要であるかどうかを考えて消費を行いたい。」と述

資料3-2 A男の意思決定チャート



べることができるなど、個人的な変容を見ること

ができた。学級全体の変容としては、「消費する際の留意点」として事前には40%の生徒が【価格】

資料3-3 B女の学習のまとめ(一部)

クレジットカードの使用によって、現金の持ち合わせがなくても欲しい商品を購入できるのは確かに便利ですが、反面、収入を考えずに物を買込み、後悔することになっちゃうかも…。収入をもとにして予算を立てて、予算に従って合理的な選択を行うことが望ましいです。

を挙げたが、事後においては70%が【必要性】をあげ、以下【安全性】【深慮】を挙げ、単に【価格】のみを挙げた生徒は10%程度であった。その中でも「なぜ安いのかを判断する」と、深まりが見られたものもあった。

個々の生徒は深める段階で、資料3-4のように「主体者としての」意見文を作成することができた。消費という一番身近な経済活動において、価格以外にも判断する材料があり、各々の長所と短所があることが、生徒に理解されたことが分かる。

資料3-4 生徒のまとめシート例

21世紀の責任者として

金融の主体者として

日本銀行の大きな役割には、物価を安定させ、それによって経済の健全な発展を助けるということがあります。そのための政策を金融政策といいます。日本銀行は、金融市場に出回るお金の量を調節することによって物価の安定をはかっています。

好況の時

市場に出回るお金の量を減らす

銀行は企業や家計への貸出の金利を上げる

通貨量の減少

景気の過熱を抑制する働きがある

不況の時

市場に出回るお金の量を増やす

銀行は企業や家計への貸出の金利を下げる

通貨量の増加

景気を刺激する働きがある

金融庁HPより

●好況の時○
銀行は、市場に出回るお金の量を減らすことにより、家庭・企業はあまりお金を借りなくなるので、景気を抑制させることができます。

●不況の時●
銀行は、市場に出回るお金の量を増やすことにより、家庭・企業は多くお金を借りることになるので、景気を刺激するようになります。

☆結論☆
金融でお金を借りるとは、後で返済が必要になります。また、消費者金融ほどではないが、金利が高いので、私はなるべくお金を借りないようにし、でもどうしても必要の時は少額の額で、短い期間だけ借りる、そして、その借りたお金をしっかり返せるようにする。ということに気をつけたいと思いました。
そして、金融はお金がよく回ることを考え、市場に出回るお金の量のバランスを取りとっていくべきだと思いました。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

○ 複雑な経済構造と各々の経済主体の存在や活

動内容を、視覚的に矢印(チャート)を用いたことで、経済構造を整理することができ、概念理解を容易にすることができた。

○ 合理的に自己判断して意思決定できる力を育成するために意思決定チャートを活用することは、生徒の理解や意思判断を整理する上で、効果的であったと考える。特に、課題に対し多様な解決方法があると同時に、それぞれに長所と短所(将来的にはリスクとリターン)があり、それらが意思決定の判断材料になることを生徒に理解させる手だてとして、有効であったと考える。

また、判断規準をもって意思決定していく活動を積み重ねることが、21世紀を主体的に生きる生徒の育成につながると考える。

2 課題

○ 経済社会の変化はさらに著しく、また複雑化の様相を呈している。今日的な課題としても、特に企業と投資家の間では金銭に関するモラルが問われている。早期の経済・金融教育の必要性が問われている状況ではあるが、義務教育の段階では、培いたい力を明確にして、内容の深入りに十分に留意し、今後も学習内容を精査していきたいと考える。

○ 本研究では手だて3の「意思決定チャート」の活用に重点をおいて、単元全体や一単位時間の授業を構想した。そのため、経済事象の意味を調べる活動に十分な時間が確保できない場面もあった。生徒が、能率良く効果的に調査活動を行うための資料や教材の開発を、今後とも進める必要がある。

(担当指導主事 峯岸 哲夫)

Web検索キーワード

【社会一中 公民的分野 判断力 経済教育
チャート 意思決定】

<参考文献>

「観点別学習状況の新評価基準表」

北尾倫彦・祇園全禄編集 図書文化

「中学校 社会科学習指導計画」

東京都中学校社会科教育研究 編著 清水書院

「新中学公民基礎基本+発展教材」

藤井英之・宮崎正康編著 明治図書

「こんなに身近な経済」 池上彰 帝国書院

「調べてみようお金の動き」 泉美智子 岩波新書